

2006年1月4日

米倉 弘昌 社長 年頭あいさつ要旨

昨年は、サウジアラビアにおける石油化学と石油精製の統合コンプレックス事業化計画（ラービグ計画）の合弁契約締結や住友製薬と大日本製薬の合併など、当社が将来成長するための布石として着手した大型プロジェクトが着実に前進した。また、業績についても順調に推移しており、2005年度において、中期経営計画で設定した数値目標を1年前倒しで達成する見通しである。中期経営計画の仕上げの年である2006年度は、さらに高い目標を設定したいと考えている。

当社が「真のグローバル・ケミカルカンパニー」へとさらに成長していくために必要不可欠な要素として考えるポイントは次のとおり。

1. 世界的に競争力のある技術と製品を武器に、特にアジアを中心とした経済成長率の高い市場で積極的に事業展開を行い、グローバル化の拡大を進めていく。
2. 化学企業の成長の源泉は研究開発である。「創造的ハイブリッド・ケミストリー」の考え方にもとづき、各部門のコア技術を部門を越えて融合し、真に社会にとって有用で魅力ある新製品、新技术を数多く育て、早期事業化を目指す。
3. 社会的責任（CSR）については、コンプライアンスの徹底に加え、グローバルな視点からの社会貢献活動にも積極的に取り組んでいく。

社員に心掛けてほしいことは「旺盛な事業家精神」を持って自らの業務にあたることである。自らが柔軟な発想でアイデアを創造し、それを不屈の精神で実施に移すという気概をもって仕事に臨んでほしい。また、ヒト、モノ、カネ、情報そして時間などの経営資源を十分有効に活用することをお願いしたい。なお、無事故・無災害は事業運営の大前提であり、「安全を全てに優先させる」ことは言うまでもない。危険に対する感受性を高め当事者意識を常にもつことが重要である。

当社は「真のグローバル・ケミカルカンパニー」を目指す力強い成長の軌道を歩み始めている。ラービグ計画を始めとする懸案のプロジェクトを予定どおりに進め、現在の中期経営計画を確実に達成し、その上でさらに高い目標を目指して、次なるステージへの具体的なロードマップを描いていきたい。

以上